

備前市施策評価シート

(平成22年度事業)

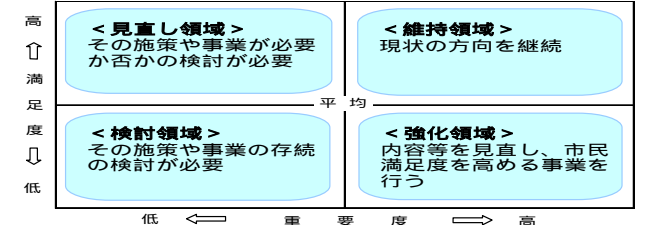
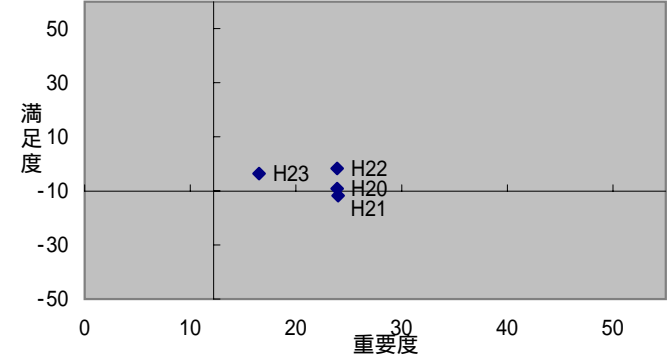
施策名 (小項目)	家庭教育	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-02-01	作成者	氏名	末長章彦
				電話	64-1841
				このシート作成に要した時間	2.5 時間

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	市内で子育てをしている保護者	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	子育ての最も基本的な教育力は家庭になければならないが、核家族化の進行や少子化により低下してきており、子育て支援団体等のノウハウを家庭に遺流させていく必要がある。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育機会の増加 家庭教育推進事業として子育て支援を行うNPO団体等と協働し、子どもの健全育成や家庭教育支援に関する、学び・交流・情報の提供等を行う。 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H20	H21	H22	H23
重要度(%)	23.9	24.0	23.9	16.5
満足度(%)	- 9.2	- 11.8	- 1.7	- 3.6



調査結果に対するコメント、市民の反応等	子育て支援に対する市民意識調査結果を援用
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H20	H21	H22		H23	500.0
成果指標 地域の子育て応援団事業参加者数	目標	人	500	500	500.0	H23	500.0
	実績	人	564	105	282.0	H28	500.0
	達成率	%	112.8	21.0	56.4	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)												施策への貢献度	
				平成20年度				平成21年度				平成22年度					平成23年度
				直接事業費	人件費	人工数	当	直接事業費	人件費	人工数	当	直接事業費	人件費	人工数	初		予
1 家庭教育支援事業	B	家庭教育推進事業	単市	0	1,549	0.20	0	1,213	0.16	0	1,450	0.17	0	0			
				平成20年度				平成21年度				平成22年度				平成23年度	
				0	1,549	0.20	0	1,213	0.16	0	1,450	0.17	0	0			

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
<成果指標の妥当性> 1 施策の目的・成果を表現しているか?	3	子育てに関する問題を解決するため、共に学び、交流し、様々な情報を共有する取組みを、子育てにかかわるNPO4法人と連携して実施した。	
<事業構成の妥当性> 2 手段は最適か?	4	県の実施する委託事業「地域の子育て応援事業」に応募しNPOとの実行委員会を組織して実施した。地域は限定されたが、それぞれ蓄積したノウハウを持つNPOの活用は新鮮で、実践事例として発信していく。	
<施策の有効性> 3 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	子育てに関する問題では核家族の浸透による、遊びや学びの伝承が断ち切られたことにある。また、父親の活躍が期待されるも、それに応えられない父親という問題も見られる。こういう状況を子育て世代に理解してもらって機会を作っていきたい。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		家庭教育の問題は様々で、近年子どもたちの基本的な生活習慣が乱れてきている実態がある。これにより授業に集中できないなど、問題が提起されており、生活リズムを向上させるための岡山県委託事業に応募し、学校園や地域と共に取組んでいる。	
翌年度(H24年度)の取組目標		様々なメニューで県委託事業が企画されるが、対応できるものは限られるため、子育てにかかわるNPO法人や学校園などに実践事例情報を提供していきたい。	
二次評価者コメント		子育ては親育てとも言われ、子どもだけに目をやっていては、木を見て森を見ずとなってしまう。子どもは親の鏡とも言われている。家庭教育は今現在奮闘しているお父さんお母さん、経験済みのおじいさんおばあさん、そして地域の大人たちを巻き込んで一緒に考えないと成果が出難く継続できない。子育ての楽しさも共有できるようなことを考えよう。	
役職 氏名	教育次長 竹中史朗		

基本施策への貢献度	3 中立
-----------	------